Stitches for Riches 広報誌
シェムリアップ通信
2022年 5 月号
作成: Stitches for Riches
広報誌編集部

SFR(Stitches for Riches)について

私たちの活動について、多くの人たちに知ってもらうために、今回は SFR(Stitches for Riches)の活動について紹介します。

＜活動日＞

SFR の活動は主に三つに分かれています。毎週のお昼のミーティング、放課後に家庭科室で集まって実際の作業をする日、Zoom ミーティングの三つです。お昼のミーティングは、毎週水曜日、国際教室で行っています。放課後、家庭科室で作業するのは、不定期で、LINE などで相談して決めています。Zoom ミーティングも、同じく不定期で、LINE で相談し、多くのメンバーが集まれる日を決めています。

＜活動内容＞

生徒や保護者の方々などに寄付していただいた布をそれぞれの商品（巾着・ペットボトルカバー・手持ちバッグ・リュックなど）の型紙に合わせて裁断し、キットを作成します。その際に、布の組み合わせを考えて、魅力的な商品になるように工夫します。その後、裁断したキットをカンボジアのお母さんたちに送り、商品になるように縫ってもらいます。学園に送り返してもらった製品にメンバーが SFR のロゴをつけます。それらを学園祭で販売します。販売の利益は、NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」(ASAP)を通してまたカンボジアのお母さんたちに送ります。このようにして、カンボジアの子供たちがよりよい教育を受けることができるようにするという活動をしています。

コロナ以前、先輩方は実際にカンボジアに行くことが出来ましたが、それが難しくなった現在は休日のミーティングで、実際にカンボジアで活動を行っている方のお話を伺ったりしています。

毎週のミーティングではより利益が得るにはどうしたら良いのかなどの話し合いや、新しい商品の開発、またシェムリアップ通信についての話し合いなどを行っています。限られた時間内での活動なので、休日や放課後も積極的に活動していくことが求められる状況です。

＜SFR の今後の方針＞

SFR（Stitches for Riches）の今後の方針は、今までの SFR をより良くしていくことを目標にしています。将来的にもっと売れるように商品を改良していこうと考えています。現在は、バッグ、ペットボトルカバー、巾着袋の三つの班に別れて各班ごとに商品の改良点を話し合っています。さらに、新しい商品も検討しています。新しく考えた商品は、カンボジアの皆さんに利益がある商品なのか、本当に可能なのか、売れるのか、などについて話し合っています。また、コロナでの規制緩和に伴い被服室で、布を型に合わせて切ったり、先ほど書いたような新しい商品のための型紙を作ったりしています。

＜Share the Wind の内田さん＞

4 月 22 日に“Share the Wind” の内田さんを啓明学園にお呼びし、大教室で一時間ほど講演していただきました。カンボジアの現状や今までカンボジアでどのような活動をしてきたのかなど様々なお話を伺いました。

“Share the Wind”は 2012 年、カンボジア・リエンポン村に小学校建設することを目指して設立されました。内田さんは村の家庭を一軒一軒まわり、親と子供それぞれに話を聞きました。それにより、村の人々との信頼関係を築くことができましたが、同時にカンボジアの現状を知ることにもなりました。カンボジアでは子供を学校に通わせるためのお金が家庭にないこと、それにより児童労働が当たり前のように行われていることなど、校舎を建てても村の子供たち全員が学校に通うことは難しい状況であることがわかりました。そこで、村の母親向けに裁縫技術を使った仕事を作って雇用を生み出したり、お菓子袋や古新聞を再利用してペンケースやポーチなどの製品を作り就学支援金にしたりなど様々なことを行いました。そして、2013 年に校舎を建て、学校が始まり、2020 年にはカンボジアのリエンポン村の初等教育就学率は 94%を超えるまでに向上しました。現在、内田さんは、自分がいなくても子供たちが持続して教育を受けられるようになることを目標に、この Share the Wind の活動を続けています。

ここで、この講演を聞いた生徒の感想を紹介します。

「今回の講義を聞いて、私はカンボジアに限らず何かの支援に携わりたいという、興味がより強くわいてきました。それと同時にカンボジアに行きたい気持ちが強くなりました。内田さんが強く言っていた支援は、時には依存させることになり、相手を甘えさせることにもなるという言葉も心に残りました。人が人に対して支援や何かをサポートすることは内容ももちろん大事ですが、大事なことは対等であるという事を忘れないことだと思いました。私はカンボジアにいって現地の人達と話をしてみたいです。自分も現地の人達と幸せだ～っていう気持ちを一緒に感じて、それを学びたいと思いました。現地の事を知っている内田さんの話が聞けてとてもいい機会になりました。」

内田さんの講演を通して支援をしていたはずが逆に新たな問題を生んでしまう事があるという事を改めて学び、今私達が行なっている SFR の活動もまずはカンボジアの方々の状況を知る事、支援の目的を明確にする事が必要だと実感しました。活動を見直す良い機会になりました。

＜SFR の卒業生からの一言＞

みなさんこんにちは。池田頼人です。僕は今年の 3 月に卒業し、現在は明治大学文学部史学地理学科アジア史専攻に在籍し、明治大学体育会サッカー部のスタッフとして活動中です。

僕は高校 1 年の時から Stitches for Riches の活動に携わってきました。1 年の時は夏休みにカンボジアに行ったり、文化祭で製品を販売したり、研修会に参加するなどとても充実した活動ができていました。しかし、2 年になるとほとんど何も出来なくなってしまいました。カンボジアにも行けず、文化祭もなく、絶望していました。しかし、これまでの先輩方が築き上げてきたこの活動を終わらせてはならないという使命感を感じてこの広報誌の作成を決めました。3 年の時には様々な方のご協力があって、15 秒という短い時間ではありましたが、テレビに出演することが出来ました。大変なことも多かったですが、無駄なことは 1 つもありませんでした。

Stitches for Riches で活動することで様々なことを得ることが出来ます。新入生の皆さんにはぜひ Stitches for Riches に参加してほかの高校では経験することの出来ないことに沢山チャレンジしてください。たくさん失敗することで、よりよい成長に繋がります。まだまだ大変な時期ではありますが、心折れずに活動を続けてくれることを願っています。